

近世小説の「雨月物語」

イングリッド ノフィタサリ

と事に とれれ、た、で「一」は  
 世安も ろさみも、一本つ之魚五  
 近慶と あとてあ落一卷鯉巻  
 、・心。で目見して酒の、の、  
 れ乱れた字節をに違、本ち応」  
 たの、つ文の手い者本読む夢姓  
 打原情なのそいなた読はな「の  
 が島世に民、担はい、」すと性  
 止はが太は親要のし草物る宿「  
 終てたる学概主もを世月あがは  
 にいめ文をの活浮雨で茅四  
 乱おて求世文学を生、「集浅巻  
 文戦にしを近文文人紙を編」、  
 の期残学、世の町近双し短は」  
 世前を文り近期たと草明る二釜  
 中、素のあり政ま人、説成之の、  
 い期要代てた化、町子にら巻津る  
 1. 長初な時代わ、りて單下か、備あ  
 ての的新时代的期あめ名以編」吉で  
 っそ動はの年禄で極假、九約「」  
 上、流々)百元人、、ろはのと論  
 なるお人人三、町りばあ」花」福  
 権すな、町えばはわえが語菊僧貧  
 政幕は見(よえら交言本物「法」  
 川開にを民おと彼にと稽月と仏と  
 徳が部定庶、たに密学滑雨」「」  
 ・代一安はる、か親文・「峰は中  
 豊時、のせれ期確と世本、白三頭  
 織うと応近わ時、人近情る「之青  
 い件一 いるは町人あは巻「

2. 省略

行 三石り、こら は声も か指て人か  
 西 安りきろさ 半お顔 し、るこ  
 た 仁かみわ今、 夜とがた間、に、  
 指 いては位はと、い」影った玉山た  
 に いる在儀か、じ位のが任せ魔のれ  
 の 聞し御盛果、ま円形お奉さ、そわ  
 院 とは院、の、さ、異とに刑た間表  
 崇、が山て後行、物円れの天、書長豊  
 る語 陵れわれ成ってでし徳体し文た時  
 あ物の 離覆うい立び中か崇て刑願した  
 にす院里になしいさのすぐっ流い起い  
 峰わ徳人どにま思え憂をす従を思を聞  
 白交崇、如皇さを冷、闇はに院の乱を  
 のをに左草上あ養とが、に令徳と大声  
 ) 争山「蔓、う供んうい行命崇うにる  
 き論の登、さい念しろな西の、ろ下す  
 め的思想白尋えや何のしででる頃つに、供た  
 ) (思は冬さ華、も、の夢いた奪玉ての、  
 ) ね岐い)初れさをてはたはでいを魔し行ま  
 ) み讚会行)そ尊のめといれんて位でを西始  
 ら、と四年たのもせあてこかき地血崇。が  
 しは靈(ハし頃た、たれや淳生ののにた争  
 (」亡僧六にたっしちわいにはそや室論  
 峰峰のの一おしが流没誘、が院はて皇かの  
 白院人一重えなをがにる朧徳仁っ、な悪  
 1. 「、一(三仕は涙日りすも崇雅破らい善  
 が、一年をおとに眠が姿しをかはら

の 菊の 門が 左門 文部と 衛門 右宗 穴赤 人だ 結を ) ちの 弟の ちの 約を 結人 だ 赤 穴 宗 右 衛 門 と 文 部 左 門 が 菊 の

束、あし武癡い行とかび、良つ、か人かて、待際に溜り丹ったて説  
 約、若、てはこて喜はを、も二つめ、をのまいあ穴をあしと  
 したのれ夜しにうして人穴、とを追定穴の山に長は赤にと刃、  
 なし、らめ、め室い誤しニ赤、はとを赤るもまだで、日こ自ず  
 と、暮ごめ、おもにとを閨門人赤のきの、のさ風、ので月ゆしれ  
 幽、人壁求、おもにとを閨門人赤のきの、のさ風、ので月ゆしれ  
 して、とふ宿こ日たよま、か、をろ、おい、赤のてわのこに里いわ  
 母、の、と四使ぬ、は日だ縁こ給は日、月い言このい千想き  
 自、老時夜た、召らた者何人のた立り秋九て、がもうけつにを永  
 月、た一、け日、さ、病の結子、い、帰「月しい人何もだ、日言は  
 が、ら、い、にあ三で、な入うこを親、お思か、九をなにははるが、一古今  
 穴、か、て、人、て、に、の、リ、に、い、。東、る、に、と、に、穴、(備、こ、中、穴、実、い、れ、人、う、。  
 赤、る、し、旅、め、さ、す、た、屋、と、う、約、よ、め、う、時、赤、節、準、て、の、赤、は、て、ら、い、す、  
 た、い、も、治、毒、ま、っ、部、門、い、ろ、に、初、上、の、と、佳、の、っ、影、私、せ、出、と、で、  
 ら、い、に、て、気、て、う、り、右、」と、夏、を、い、は、陽、一、は、が、て、を、か、ら、く、た、  
 捕、嫁、て、う、見、い、て、女、宗、す、弟、も、子、「秋、重、精、」ろ、し、い、形、城、な、申、し、  
 し、妹、訪、の、人、模、と、い、は、赤、し、義、母、す、の、門、も、で、よ、「お、穴、ひ、飯、い、に、も、全、  
 約、の、を、人、の、い、つ、へ、門、い、に、の、も、国、左、と、朝、つ、か、赤、を、長、う、里、を、  
 を、者、家、主、応、な、過、傍、左、を、報、い、に、の、も、国、左、と、朝、つ、か、赤、を、長、う、里、を、  
 と、こ、う、連、た、れ、で、人、ん、も、を、に、。く、て、ろ、お、左、門、ち、時、さ、っ、た、せ、が、日、花、  
 る、い、友、い、え、も、は、せ、ど、話、心、て、た、早、し、こ、」と、左、待、ろ、ま、や、れ、の、だ、一、菊、  
 す、話、と、は、づ、伏、病、ま、れ、世、御、っ、は、向、と、。、す、。、が、弟、の、く、  
 会、ろ、門、門、氣、で、起、行、り、け、な、も、女、帰、れ、下、。、ろ、や、日、が、と、ろ、て、け、徒、た、よ、り、  
 再、す、左、左、に、体、流、お、。、々、と、に、に、流、は、た、ね、き、九、た、う、く、い、。、う、魂、乗、。、  
 句、全、文、日、な、の、し、す、せ、つ、。、死、友、て、時、一、話、て、つ、九、て、沈、っ、を、せ、と、し、ず、風、し、  
 節、を、る、氣、士、熱、ま、か、だ、ら、い、れ、く、に、け、待、っ、に、や、息、ま、治、て、は、陰、明、  
 丹、

商、し、っ、西、も、た、束、も、き、  
 が、会、あ、頭、約、木、て、り、  
 男、再、で、と、か、と、宮、し、よ、  
 う、と、家、う、く、な、。、出、た、  
 い、木、豪、ろ、よ、め、る、た、い、の、  
 と、宮、。、帰、も、止、帰、っ、思、風、  
 郎、の、話、く、に、貌、と、あ、を、  
 四、妻、う、多、昔、容、が、っ、葉、が、  
 勝、て、い、も、度、い、き、様、言、た、  
 む、し、と、如、一、は、な、は、有、の、  
 住、郷、た、田、う、木、し、に、う、夫、な、  
 た、帰、っ、は、も、宮、は、秋、ど、に、  
 間、と、だ、て、。、妻、成、の、ま、が、秋、  
 真、っ、靈、つ、た、の、賛、こ、が、左、  
 の、や、亡、か、っ、郎、を、「逃、っ、  
 )、に、の、女、四、の、は、は、思、待、  
 )、し、年、は、人、し、い、。、女、う、ち、  
 ど、つ、七、れ、住、食、た、と、た、女、う、ち、  
 や、か、で、そ、の、に、し、ろ、し、り、け、  
 が、(乱、と、ら、第、心、な、を、な、逃、た、  
 じ、飾、戦、ろ、か、次、決、に、束、と、へ、い、  
 さ、葛、。、み、前、。、を、人、約、た、ろ、て、  
 あ、は、し、て、代、い、と、商、は、ま、こ、っ、  
 (「京、け、三、嫌、こ、が、人、ち、と、待、  
 宿、宿、上、明、。、を、ろ、夫、二、の、な、で、  
 が、か、に、が、は、業、す、。、に、乱、全、こ、  
 茅、茅、め、夜、郎、農、を、で、夜、。、戦、安、そ、  
 浅、浅、た、。、四、売、女、前、た、に、か、と、  
 3、売、た、た、で、上、出、を、ど、す、

、聞た「ら重今な。れもど。が、  
 方がをったしはもら流木ががや  
 一たとどら雲郷たえが宮とた、  
 。しこもさは雨故当み涙。こっぎ  
 たとのへ今い、左見にだたる待泣  
 っう乱京はられも光たっきけは  
 あよ戦を郎く暮育々の。だ生だて  
 でのま四塚はれ家星左のてれっ  
 み郷で、勝て日ま、がったえど語  
 の帰郷で、めに生が影あし耐をり  
 ち、故えだせて、らのでをて夫語  
 して、考っ、すたか松木明人ぬは  
 を得はとまも。っわを宮弁一うて  
 かを郎いしてたあもれはた女帰い  
 不利四までして道オのっに泣  
 恨の勝られと向り、碎たが場の、  
 、分。い流るへかてにけなのだと  
 と十たはにい方ばれ雷あら乱っこ  
 だ、ってうてのろ荒、を帰戦たた  
 のしまきとっ郷かにに戸箇。これ  
 たくし生のま故がれち、いろ秋晴  
 れ尽ても夢し、ち荒うが長べ、も。  
 らりれ妻がでて落くろ家、迷かみた  
 て売わ、日んえてとりのはをた恨い  
 捨を奪け月死考めごて分郎みっい  
 に絹に焼うはとことね自四しが長に  
 天、賊もい木」れこが、勝苦らは床  
 、は盗家と宮...垂島りそ。のつ今  
 く郎で、年えはく田帰こみ分けし  
 な四中てととね暗は。れの年だが  
 え勝途い たえくでいころ七れし  
 る妻郎ハて

三、もしは眠呼を夕  
 魚、ち、を夢、殿  
 が、たたえ殿らた、助  
 た、つっ人み助た、  
 した、買ま知ヒのにま、  
 死、うしやう平鯉した、  
 病、かて弟よの、てめ知  
 が、師人徒在家時れ覺を  
 義の漁死ため檀」うがと。  
 興も、っ始は左売目こた  
 僧、はりまき義いへ、ろせ  
 の語時な集動興てろにあさ  
 寺をろに、し、っこ時て  
 井、駿あ気で少て眠と左じ捨  
 三、休ま病のがし「のっ同に  
 )、左、左、左、左、左、左、  
 上手、義あ手、日助で全を  
 ん名なた興で、左三てろと鯉  
 りのとい、かどっ。れこ定た  
 の絵鯉が年温る上左らと現っ  
 うのに僧ろしすき釣ろが残  
 お魚問うあ少。起語にれ話、  
 むはのい。がたにを師らたて  
 (」そとたりいう語漁切いせ  
 魚魚、義したてよな、どてら  
 鯉鯉し興返あった議時殆っ走  
 のの生ににの守め思のに語に  
 応、蘇寺水胸見覺不そめの家  
 夢、に井の、間ら、た義を  
 「目三とし日かだたの興使  
 日、もか三り人み食 召

会、あ、び、突、  
 出、月、悩、  
 に、に、に、  
 聖、ひ、抜、  
 亡、い、な、  
 の、う、し、  
 臣、た、わ、  
 家、せ、け、  
 と、見、と、  
 次、を、た、  
 秀、様、い、  
 白、有、着、  
 関、の、に、  
 イ、人、山、  
 野、の、野、  
 高、都、高、  
 が、に、か、  
 )、男、治、  
 う、え、ろ、  
 そ、作、あ、  
 う、子、日、  
 う、息、た、  
 ぼ、然、息、  
 っ、夢、が、  
 ぼ、男、在、  
 (」、男、在、  
 僧、滯、て、  
 僧、い、に、  
 法、一、宅、  
 法、然、別、  
 仏、話、夢、  
 う、ま、時、  
 僧、然、法、



う おびだつ、雄太  
 と は学ん思は豊い  
 ま に物こと雄、し  
 き 村、けだ豊時々  
 つ 漁は駆う、た輝  
 て 、雄にそにっら  
 け み豊家い夢言か  
 化 好、のわの女子  
 に をと子が方い女  
 が 雅こ細。暁在真  
 蛇 風のと左、リ、  
 た く下と会のにし  
 恋 し月しにそ妻を  
 優 九をやたの約  
 に き。りろっ雄婚  
 ) 年話うた宿ま会豊、  
 人 青ろれっ雨女出がら  
 い うれ来ぬ、童。子か  
 の いら生でたと女だ  
 い こえ。者っ性が真の  
 せ 雄押た若ぬ女ぬ。ろ  
 \* 豊取れいにうてら  
 じ はてがな雨いしねて  
 ( 「男く大と貨訪う。  
 姪 姪ようし途子を恋た  
 の のにわ帰女傘家をっ、  
 性 性力とさ、真、の子らしへ豪全上がろろ事、恐つてがらん老か部てきとわ、はい  
 蛇 蛇法雄ふてでら子女もか所のてえ上いあのとと一けかたニ。れ、人驚の変せ子と  
 7 「豊そ出こか女真をし役をし捕ちててとよ、負し神、たあ夜なは尚に富た  
 が 上にそた真は刀 てをにを立れ者 の鬼てがさ邪かし のろ雄和形め  
 しう日女。ま害 月は、め婦き、のい出 目れ豊、の埋  
 談た一。た積袂 ニ雄と夫とこ早降 日ま。て蛇に 変  
 相人がろっ山の 年豊つ姉た「が降 ニやたしのま  
 と 役家いまがし 翌、れにっにくく 。ほっ心元ま  
 父、のてし室む 。たごさ行の聞し。たやあ決はの  
 、てそって神も たっにしにるを激たしうで休やそ  
 りし、座れた雄 ね会解ら見いのがし婚を子雄ろ鉢、れ  
 ををこ一がたで をやくの、け眩、説と交真、や、れ崇  
 とととが人盗む。家ろしき日向ときを性人にて子てさ  
 ここと女のにわたのまら、ろを」まと女こそけ女せに雄  
 うのっにく上しし姉ともくあ背だ逆こい、まあ真らう豊  
 い子行中多のの許ろ子と泣。はのはろしてはが、掘と後  
 と女、の、床性くい女ったやも水あ美て声夜でくいの  
 だ真が屋き、のぬで真もめせろちうでう捨し。け深ぬそ  
 品、た部びり物と人然もむせまれ太蛇いをかたかをの。  
 盗はっ。ひおほこ任突子ぬ婚やらちがとりししお前とた  
 が 雄思ろりてれろに、女と結子出たや子契、かののこし  
 刀 豊といぬえこぬ困て真て、女く。ろ富い子あ尚豊ろ死  
 太 たうて声消、責のっ、えて真よたまは古富を和、出病  
 の れこっ雷はもで他行からぬ、へんや雄「は夜。れにも  
 そ わいな、女々まはにうしす人所込子豊時姿でた入世に  
 は 捕てに時は人さ雄参惑こす一近び女、たう態っにびれ  
 郎。れ屋ろれの、豊寺れいを人の飛真月っい状行鉢再哀  
 太 た連庵すみ所りらはい雄老私に、カ入、絶へ鉢、し  
 兄 えへのとて役知か雄かつ豊た。淹は数にと気ろ、来か。  
 訴 家くうっ。と件豊れ一、っめは人ら屋」、こり未しう。  
 性 性力とさ、真、の子らしへ豪全上がろろ事、恐つてがらん老か部てきとわ、はい  
 の のにわ帰女傘家をっ、  
 の のにわ帰女傘家をっ、

の 中か子荷の  
 左 村畑やが僧  
 々 、田女人老  
 と で、とまう  
 鬼 のがで。い  
 人 たる内りと  
 食 ったのが  
 食 った家ごう  
 し ました、騒ろ  
 食 した、騒ろ  
 を てめだろぬ  
 体 ねれ求めぬ  
 死 話暮を叫隠に  
 の ろが宿でに十  
 そ せ日の声ち五  
 が ぞで夜大こて  
 僧 仏村一とちが  
 た 成る、「あや  
 ) 愛っはつたつと  
 ん 熱も師立来りる  
 き をを禅にか走み  
 お 思誠庵門鬼つて  
 お 維教快ろのび出  
 あ はが、れ山転り  
 ( 「師時ら「走  
 巾 中禅ろみはびて  
 頭 頭庵と違叫っ  
 青 青快に家男きも  
 8 「秋豪る泣を  
 を 帰が棒

山あまりかこ、し  
 の。ねなを体い明  
 こすうにぞ遺吸説  
 「ま来気すにをく  
 はりて病しう肉長  
 人なつた悲大の長  
 主に伴し、じもと  
 、でをとた同、」  
 らい童っしとです  
 がおのたま時人で  
 なで歳ちいたしの  
 め人三いまいおた  
 才住・つしてをっ  
 すが二ができのま  
 を様十童人生くし  
 事坊は、死がいて  
 食おにろう見てべ  
 、い時こと童ん食  
 う高ののう、だを  
 かの因月とわたて  
 て徳帰四、せりべ  
 っ、年たも腐す  
 謝て今のにがに  
 。っ、左葬肉い  
 たあ行がれ土のつ  
 っかへろさもそ、  
 あ寺国に病に、て  
 師つ、他と看葬れめ  
 庵、一日た者、わも  
 庵、にろし医うた骨た  
 快いささた日うえ一  
 た出にれ朝が考まお  
 しもり隠い。獄を  
 尻言きにな地味  
 きーしころ「意  
 引、をどい、の  
 にてか、はし句  
 心っ何めに白、  
 ぬら、主目告て  
 粹もて坊はをっ  
 純て出「師業言  
 のせをす禅悪を  
 来う室き、の句  
 本泊寝が分ニ  
 の、かがろ自の  
 様時様と廻に歌  
 坊た坊こり師は  
 おいおろ禿禿師  
 の着、りもは禅  
 、寺ろ見幾坊た  
 、そろ見幾坊た  
 い、な、をおっ  
 いたに子前の願。山  
 開っ夜様のそとた  
 を行。ろ師、」し再  
 語てだ禅とい山は  
 物っんで、す々下  
 の登込っとさ下、  
 こをり廻」がて、  
 は山座しか光っせ  
 庵、すかのの殺々  
 快いささた日うえ  
 た出にれ朝が考ま  
 しもり隠い。獄を  
 尻言きにな地味  
 きーしころ「意  
 引、をどい、の  
 にてか、はし句  
 心っ何めに白、  
 ぬら、主目告て  
 粹もて坊はをっ  
 純て出「師業言  
 のせをす禅悪を  
 来う室き、の句  
 本泊寝が分ニ  
 の、かがろ自の  
 様時様と廻に歌  
 坊た坊こり師は  
 おいおろ禿禿師  
 の着、りもは禅  
 、寺ろ見幾坊た  
 、そろ見幾坊た  
 い、な、をおっ  
 いたに子前の願。山  
 開っ夜様のそとた  
 を行。ろ師、」し再  
 語てだ禅とい山は  
 物っんで、す々下  
 の登込っとさ下、  
 こをり廻」がて、  
 は山座しか光っせ  
 庵、すかのの殺々  
 快いささた日うえ  
 た出にれ朝が考ま

金 黄 集、燭でわた。  
 のなはしめ、燭でわた。  
 らと々。集、燭でわた。  
 いこ人たをたら精、論ど。  
 てる。人金しこのらを  
 めすた憎か直と金かと  
 とといみ内見た黄たこ  
 つ味とと左」めはしろぐ  
 れ趣しう「ださ翁動あ稼  
 こをと、男かの感係を  
 に道みしての目えに関金  
 約香ししい見で。ととお  
 俊や楽と開識のたこ福の  
 。道て男をいろした貧問  
 ろ茶べな話しすてしは人  
 ら並卑う珍がっが人な  
 あ。並卑う珍がっが人な  
 武士でたき野い、音立内ニ々  
 武士をしでとだ物に左、色  
 武ををちたのにかの夜や  
 強う黄きあなとこのそ福  
 ろ錢語が大中じをはほにそ。貧  
 く金物心う屋ま金でのがはたの  
 お生ろうえ部ろの欲枕翁にっ教  
 人平か願栄、あ両貧のいうだ儒  
 ひは論をみはにする内さ言とや  
 「」を貴富時士にな左小のこ論  
 論論福富にる武僕単、翁う福  
 福福貧は第あ、下、夜に、い貧  
 貧貧と内次暇を、はの下のたの  
 「精左、内しのそのったた教  
 の精左、内しのそのったた教  
 台あれ私

「雨月物語」に中心  
 貫はでと質受  
 をえだう、の  
 品、味いれ夜  
 作ろ意とあ、  
 のあうたでリ、  
 そでいい受あ  
 家として享で  
 家作たき、家描  
 か作たき、家描  
 何なう生れ作  
 は統て情で夜を  
 と統て情で夜を  
 上田叙成の世界  
 3. 文学伝流心造、聞  
 文文て一な創に、  
 くのめ、的、さ  
 描成極て層はま  
 を叙はし深と、描  
 上田成との字は  
 1. 当代族文成こ  
 閨を

「雨月物語」全夜九話の中、で、越え、に、く、い、一、夜、を、含、ま、な、い、も、の、は、  
 とど、月、物、語、。、夜、の、と、の、お、き、関、係、に、お、は、け、て、秋、成、は、光、を、れ、の、の、の、し、あ、  
 人、ど、月、物、語、。、夜、の、と、の、お、き、関、係、に、お、は、け、て、秋、成、は、光、を、れ、の、の、の、し、あ、  
 性、物、語、。、夜、の、と、の、お、き、関、係、に、お、は、け、て、秋、成、は、光、を、れ、の、の、の、し、あ、  
 理、物、語、。、夜、の、と、の、お、き、関、係、に、お、は、け、て、秋、成、は、光、を、れ、の、の、の、し、あ、

2. 秋人の相人まりて、い  
 女成、男、の、は、小、説、の、登、場、人、物、を、整、理、し、て、性、別、な、り、年、齢、な、り、  
 秋人の相人まりて、い、女成、男、の、は、小、説、の、登、場、人、物、を、整、理、し、て、性、別、な、り、年、齢、な、り、  
 うあ、り、の、係、を、分、も、男、の、は、小、説、の、登、場、人、物、を、整、理、し、て、性、別、な、り、年、齢、な、り、  
 れ、い、る、の、係、を、分、も、男、の、は、小、説、の、登、場、人、物、を、整、理、し、て、性、別、な、り、年、齢、な、り、  
 れ、い、る、の、係、を、分、も、男、の、は、小、説、の、登、場、人、物、を、整、理、し、て、性、別、な、り、年、齢、な、り、

3. 家庭小説、秋成の家、父、母、兄弟、  
 家庭小説、秋成の家、父、母、兄弟、  
 こはをわ、い、る、の、係、を、分、も、男、の、は、小、説、の、登、場、人、物、を、整、理、し、て、性、別、な、り、年、齢、な、り、  
 こはをわ、い、る、の、係、を、分、も、男、の、は、小、説、の、登、場、人、物、を、整、理、し、て、性、別、な、り、年、齢、な、り、  
 こはをわ、い、る、の、係、を、分、も、男、の、は、小、説、の、登、場、人、物、を、整、理、し、て、性、別、な、り、年、齢、な、り、

4. 秋成の約、赤穴、  
 秋成の約、赤穴、  
 約の左、右、を、  
 約の左、右、を、  
 約の左、右、を、

「雨月物語」全夜九話の中、で、越え、に、く、い、一、夜、を、含、ま、な、い、も、の、は、  
 雨月物語、全夜九話の中、で、越え、に、く、い、一、夜、を、含、ま、な、い、も、の、は、  
 雨月物語、全夜九話の中、で、越え、に、く、い、一、夜、を、含、ま、な、い、も、の、は、  
 雨月物語、全夜九話の中、で、越え、に、く、い、一、夜、を、含、ま、な、い、も、の、は、  
 雨月物語、全夜九話の中、で、越え、に、く、い、一、夜、を、含、ま、な、い、も、の、は、

的を寺 精神者福 精西の 業と禪 医の南 歳都 五京 通、言 五通、 始か、 強の、 勉たな ちせく なるな 此れに 者療殿 医を六 成十、 秋と かもは かに成 きの秋 書休、 肉たら 説も内 小にや 月に 月ない 怨霊 太骨賞 中

てに白の亡正白鑑の ねと面院の、も群 ほか徳門はさで説 かうな崇衛に艶け小 雨いかく右ら妖だ異 となん宗さのれ怪 となん宗さのれ怪 となん宗さのれ怪 となん宗さのれ怪 となん宗さのれ怪

説明品を木あ念く した読現のろを作 大か人わて幽真どう 大か人わて幽真どう 大か人わて幽真どう 大か人わて幽真どう 大か人わて幽真どう

身の上小説の続け世に 自ら小説の続け世に 自ら小説の続け世に 自ら小説の続け世に 自ら小説の続け世に

者未談憤友ら蛇け近あ 作出怪とを待、続、で 作出怪とを待、続、で 作出怪とを待、続、で 作出怪とを待、続、で 作出怪とを待、続、で

名を単に光と恐とてた 名を単に光と恐とてた 名を単に光と恐とてた 名を単に光と恐とてた 名を単に光と恐とてた

うではのたそ豊歌なん うではのたそ豊歌なん うではのたそ豊歌なん うではのたそ豊歌なん うではのたそ豊歌なん

闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき

リで良で作品抜 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき

原機まいき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき

暗茅襲っのひ 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき

雨あくがうて高と 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき

雨お、品、浅をな値も 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき

雨お、品、浅をな値も 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき

雨お、品、浅をな値も 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき 闇けつ怨道とき

参考文献  
 1. 「雨月物語」の古典  
 2. 図説日本の古辞典  
 3. 日本文学史